

別紙1-1

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

氏 名 早川 亜希

論 文 題 目

就学前保育施設における子どもの主体的な活動を支援する保育室付帯諸
室の計画に関する研究

(A study on the planning of the supporting rooms around the nursery
rooms to enhance children's independent activities in the nursery facilities.)

論文審査担当者

主 査 名古屋大学大学院環境学研究科 教 授 小松 尚

副 査 名古屋大学大学院環境学研究科 教 授 西澤 泰彦

副 査 名古屋大学大学院工学研究科 准教授 太幡 英亮

論文審査の結果の要旨

本研究は、保育の質の向上において子どもの主体的な活動を支援する就学前保育施設の整備が急務という考えに立ち、子ども一人ひとりの特性や精神面に寄り添う建築計画の知見を得るため行われた研究である。

本論文は7章からなる。第1章では、研究目的と方法、調査方法を整理し、2章では、就学前保育施設の法的な位置付けや建築計画上の展開、既往研究の成果を整理し、自由時間内に保育士の見守りの中で保育室に付帯する諸室（以下、付帯諸室）を含む子どもたちが主体的に活動できる範囲（以下、自由活動範囲）を研究対象とし、自由活動範囲における子どもの活動実態を考察する学術的意義を示した。第3章では就学前保育施設に対して実施したアンケート調査結果（83事例）を基に、付帯諸室の種類、規模、配置、そして自由活動範囲などを分析し、特に付帯諸室と自由活動範囲の関係について、付帯諸室構成の多様性と子どもが自由に過ごす場所のそれが必ずしも一致しない点を明らかにした。第4章では68事例について、自由活動範囲を類型化し、自由活動範囲内にある付帯諸室の特徴を保育室との配置関係から分析した。保育室からの高い視認性や一体性が感じられる空間特性が、自由活動範囲内の付帯諸室に必要な計画上の要件として推察された。さらに、自由活動範囲の広がりや付帯諸室の種類から4つに分類することができた。そこで第5章では、その類型毎に保育者の空間評価を分析し、類型に応じた評価の差異とともに、共通して視認性が重視されている点を明らかにした。第6章では自由活動範囲内に遊びスペースが用意された27事例について、子どもの活動内容から分析した。結果として、保育者の評価とともに子どもの活動に対する3つの視点（子どもの場所選択の自由度、活動の多様性、活動の視認性）から遊びスペースが持つ4つの役割を抽出し、さらに子どもの主体的な活動を支援する3つの段階（視認性の確保による保育者の見守りやすさの確保、適切な距離感と支援のしやすさの工夫、子どもによる家具の可動性の確保）を見出した。第7章では研究を総括し、付帯諸室の空間計画と保育士の関わりの点から子どもの主体的な活動を支援する就学前保育施設計画の要件を、また空間、活動、使い方の工夫の点から建築計画学への示唆を提示した。

就学前保育施設に関する建築学分野の先行研究は、保育室の計画・設計に寄与する研究が中心であった。これに対し、本研究は保育室に付帯する諸室までを子どもたちの活動空間と捉え、付帯諸室各室やその集合体である自由活動範囲の空間構成の特性をふまえながら、保育士が見守る中で子どもたちの活動実態と、それに対する保育士の評価を実証的に分析、考察し、建築計画上の要件を提示している点は高く評価できる。また同時に、今後の就学前保育施設計画の実践に対しても多くの知見を提示している点も高く評価できる。

よって、本論文の提出者早川亜希さんは博士（建築学）の学位を授与される資格があるものと判定した。